

基本 計画



6 観光

現状と課題

本村には、民俗文化や伝統芸能、また、平家まつりをはじめとした観光イベントや豊かな自然環境など、数多くの観光資源があります。

しかし、観光客数については、台風災害により激減した平成17年からは微増傾向にはあるものの、ピーク時の数には遠く及ばず、さらには、アクセス道路の改良等で日帰り型観光も増加しているため、より多くの人々が繰り返し訪れ、滞在する観光地づくりに向けた一層の取り組みが求められている状況にあります。

このような中、これまでに、村民総力戦を想定した観光のむらづくり応援事業や観光ガイドの養成及び組織化、ファンクラブしいば好き人事業、観光協会の体制強化、平家さくらの森や鶴富屋敷周辺整備による新たな観光名所づくりなど、誘客につながる事業を展開しています。

また、本村の資源を活かした体験型観光については、体験プログラムの商品化や提供者のレベルアップを目的としたツーリズムネットワークの立ち上げ、農家民宿の開業支援、体験ツアーの誘致などに積極的に取り組んでいます。

このほか、登山道の整備や登山ガイドの支援、希少植物の保護といった自然観光資源の充実や駐車場・観光トイレ・案内看板といった観光施設の整備、ホームページやパンフレット等でのきめ細かな情報提供、広域連携による圏域での誘客など多面的に観光振興を図っています。

今後も、観光産業は他産業にも経済効果を波及する重要な産業として位置づけ、既存資源の一層の活用や新たな資源の掘り起こしなど、村の持つ資源を有効的に活用した観光地づくりを推進していく必要があります。

基本方針

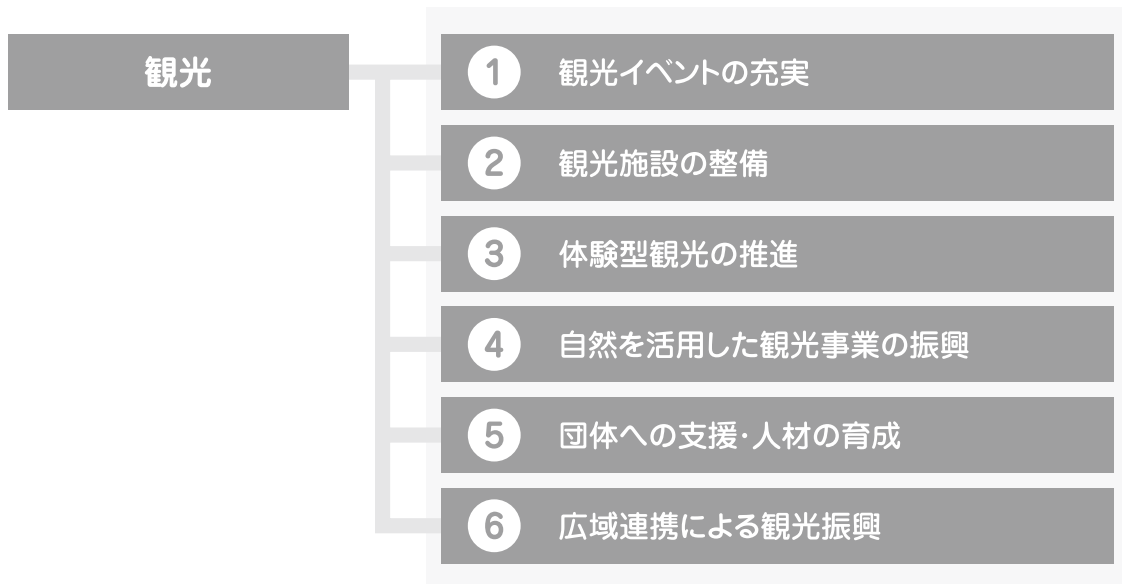
観光協会を核とした誘客対策事業の展開、イベントの充実や観光施設の整備、ガイドや宿泊業者等への研修機会の提供などによるホスピタリティ※1の向上、本村の観光資源を有効に活用した体験型観光の推進など観光基盤の強化に努めます。

また、広域的な取り組みによる観光振興を進め、さらなる交流人口※2の増加を図ります。

※1 ホスピタリティ:客を親切にもてなすこと。また、もてなす気持ち。

※2 交流人口:観光、仕事、学習、消費などさまざまな動機で村を訪れる人口のこと。

施策の体系



施策

① 観光イベントの充実

- 平家まつりや郷土芸能の夕べなど本村特有のイベントの継続及び充実や、積極的な観光PRに取り組むことで、観光客のさらなる誘致を図ります。

② 観光施設の整備

- 観光拠点である鶴富屋敷周辺を中心に、観光名所の整備による魅力向上や駐車場の収容力向上に取り組みます。
- キャンプ場や民俗芸能博物館などの交流施設の活用及び充実に努めます。

基本 計画



③ 体験型観光の推進

- 民俗文化や伝統芸能、農林業や山村生活の体験など都市住民との交流事業の展開を図ります。

④ 自然を活用した観光事業の振興

- 河川の源流地や美しい渓谷、名水、山岳等を活用した観光PR及びイベントの開催を推進します。

⑤ 団体への支援・人材の育成

- 観光振興の中核的役割を担う観光協会の育成・強化をはじめ、観光振興に寄与する団体への積極的支援に取り組むとともに、体験型観光に関する指導者や観光ガイド等の養成を図ります。

⑥ 広域連携による観光振興

- 関係圏域及び隣接町村との連携のもと、観光ルートの作成や共同での情報発信、または、サイン計画の策定による案内板の統一化、休憩所等の施設整備に取り組みます。
- 定住自立圏※¹形成市町村との連携のもと、協定及び共生ビジョン※²を活用した広域施策・共同事業の効率的な推進を行い、交流人口※³の増加を図ります。

※1 **定住自立圏**:中心市と周辺の市町村が協定を締結することで「定住自立圏」を形成し、中心市における圏域全体の暮らしに必要な都市機能の集約的整備、周辺の市町村における必要な生活機能の確保を進め、互いに連携・協力することにより、圏域全体の活性化を図ることを目的とする。

※2 **共生ビジョン**:定住自立圏の中心市が、生活機能確保の役割を担う民間や地域の関係者、圏域住民で構成する「圏域共生ビジョン懇談会」での検討を経て、協定締結した他の市町村との協議の上策定するもので、圏域の将来像や、具体的な取り組み内容及びその成果を決める。

※3 **交流人口**:観光、仕事、学習、消費などさまざまな動機で村を訪れる人口のこと。



■ 銘水の郷釣り大会



■ 扇山山開き



■ 平家まつり